

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



那須ワイズメンズクラブ

2024～2025年度 No.304

4 月報

那須クラブ会長 主題

ユースと共にミッションを



強調月間：Week 4 Waste
RBM

今月の聖句 ルカによる福音書 22：1～2
さて、過越祭と言われている除酵祭が近づいてきた。祭司長たちや律法学者たちは、イエスを殺すにはどうしたらよいかと考えていた。彼らは、群衆を恐れていたのである。

4月第1例会（CS公開講演会）

那須ワイズメンズクラブ 主催 公開講演会 知っていて安心、介護保険と施設の話

—知っていますか介護保険が改定されたことを—

厚生労働省では、介護保険制度を3年に一度の見直しが行われ、2024年に介護保険制度が改訂されました。どこがどのように変わったのか、そして利用する者にとってはどのようなことになるのかを知る機会です。

2024年介護保険制度改定議論のポイント

- ① 2割自己負担対象者の拡大?
- ② 通所介護事業所による訪問サービスの提供
- ③ 介護事業所の経営見える化・財務諸表の公表
- ④ 居宅介護支援事業所による予防支援事業指定
- ⑤ 処遇改善加算の一本化
- ⑥ 福祉用具のレンタル対象商品見直し?
- ⑦ 科学的介護を訪問介護・居宅介護支援にも

講師 地域包括センターとちのみ
ケアマネージャー 遠藤 晃子 先生
社会福祉士 山越 正仁 先生



主な在宅サービスの概要

- 介護保険サービスは、介護が必要な高齢者に限し、その自立を支援するために提供されるもの。
- 自宅に在住の高齢者に対して提供するサービスとして、主なものは以下のとおり。

訪問サービス

訪問介護

- 利用者の自宅を訪問し、居宅において、以下を行う。

- ① 入浴・排泄・食事等の介護

- ② 調理・洗濯・掃除等の家事

- ③ 生活等に際する相談及び助言

- ④ 療養介護

通所介護

- 利用者が事業所に集むが、事業所にあって、以下を行う。

- ① 入浴・排泄・食事等の介護

- ② 生活等に際する相談及び助言

- ③ 療養介護等の実施等

- ④ 療養介護

地域包括型介護

- 利用者を対象に地域性人出させ、施設において、以下を行う。

- ① 入浴・排泄・食事等の介護

- ② 調理・洗濯・掃除等の家事

- ③ 生活等に際する相談及び助言

- ④ 療養介護

地域包括型サービス

訪問介護・訪問看護・訪問介護・訪問看護

- 自宅・施設を通じて、訪問介護・訪問看護・訪問介護・訪問看護を実施するもの。

- ① 入浴・排泄・食事等の介護

- ② 調理・洗濯・掃除等の家事

- ③ 生活等に際する相談及び助言

- ④ 療養介護

訪問介護・訪問看護・訪問介護・訪問看護

- 自宅・施設を通じて、訪問介護・訪問看護・訪問介護・訪問看護を実施するもの。

- ① 入浴・排泄・食事等の介護

- ② 調理・洗濯・掃除等の家事

- ③ 生活等に際する相談及び助言

- ④ 療養介護

入場無料

お問い合わせ

那須クラブ会長 田村 修也
携帯電話 090-5545-6763

日時：4月12日(土)午後2時～

場所：日本基督教団 西那須野教会(那須塩原市太夫塚1丁目232-438)

2024～2025年度 主題

国際会長：(IP) A・シャナヴァスカーン (インド)

「より良い世界のために、共に」

アジア太平洋地域会長：(AP) ジョウン・ウォン (香港)

「大きなインパクトを起こそう」

東日本区理事：(RD) 山田 公平 (宇都宮)

「ワイズの方向性を見極める」

北東部長： 大久保 知宏 (宇都宮)

「戦略2032を意識して」

クラブ役員

会長：田村 修也

副会長：村田 榮

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：武田 将吾

ブリテン：田村 修也・村田 榮

3月例会データー (出席率：100%)

メンバー6名、メネット3名、ゲスト1名、

メイキャップ1名

在籍者 7名

4月 Happy Birthday

CS 公開講演会 知っていて安心介護保険と施設の話

日時：4月12日(土)午後2時～

場所：日本基督教団西那須野教会

5月第2例会(役員会)

日時：4月24日(木)午後4時30分～

場所：田村会長宅

5月例会(植樹例会)

日時：5月10日(土)午前10時～

場所：那須街道赤松美林

巻 頭 言

村田 榮

今年の3月初めにNHKで「鶴瓶に乾杯」という番組を見ていました。関上（ゆりあげ）地域への訪問番組でした。そのテレビを見ていて思い出したことがあります。

2011年3月11日の東日本大震災後、被災地の様子がテレビで何度も報道されているのを見た、今は亡き義父と義母が被災地（仙台）に訪問したいと言いました。私たち夫婦と妹夫婦の6名で、被災地に日帰りで訪問することになりました。5月の中頃であったのではないかと思います。被災された人たちには申し訳ないとの気持ちを持ちながらの被災地訪問でした。東北道（道路は、ところどころ亀裂を修復した跡がありました）を北に向かい、仙台に入りました。地震と津波による被害が大きかった地域からすれば、そんな被害地であるとの印象が少なかったです。しかし、仙台南部道路を海側に行くにしたがって、川を上ってきた、津波の後の爪痕が残っていました。長町で仙台南部道路を降り、被災地を回ることにして、仙台東部道路より、海側に入ったとたんに大きく印象が変わりました。ところどころにぽつんと家があるだけで他は見渡す限り、何もない津波に侵された田畑でした。そこから南下し、名取川を渡り、関上—この地名の読み方もわかりませんでした—に入り、また、大きく一変しました。一面が津波による被害で手も付けられていない廃墟が多くあり、コンクリート造りの建物だけが残り、ほかの建物は津波に流された光景でした。大きな船が道路端に数艘ありました。関上港の近くに行くと、日和山がポツンとあり、その頂上近くまで津波の高さがあったとのことでした。そこを過ぎ、仙台空港近く来た時には、セスナ機が流されてきてそのまま残ってありました。大変だったのだなと感じました。不意に、30年前姫路で住んでいた時、阪神淡路大震災の1週間後に被災したいとこの家に行った時のことを思い出し、フラッシュバックしてしまい。いてもたってもいられなくなったことを思い出しました。みんなには悪かったのですが、そのまま引き返してきました。後で聞いた話では、仙台東道路が津波を仙台市内に流入を防ぎ、道路に逃げた人たちは助かったとのことでした。

それから、毎年のように3月11日前後に被災地訪問をしてきました。少しずつ復興をしていく街並みを眺めています。高台に新しい街ができ、日和山の周りは、津波遺構の公園（震災メモリアル公園）が作られています。海が見渡せた海岸には、防潮堤ができ海を見ることができず、土地をかさ上げをして道路ができ、道路よりはるか下に田んぼができ、稲を作らなくなった田畑には、太陽光発電所が立ち並び、放射能を多く含んだ汚泥がうず高く積まれている様子を見ると、復興への道のりは、まだまだであると感じます。被災された方々と亡くなられた方々の冥福と平安を祈るばかりです。



3月例会（張さんの送別会）於：中華料理 龍鳳園 2025.3.8

3月例会(張さんの送別会)報告

日時：2025年3月8日(土) 午前11時30分
場所：中華料理 龍鳳園
出席者：田村、村田、藤生、原田、張、鈴木の各メン、田村、藤生、村田の各メネット、ゲスト：中村さん、計10名

ワイズメンバーである張ウエリ氏が台湾に帰られるため、今までの活躍に感謝するとともにこれからの健康と台湾での活躍を祈念して、3月例会は送別会として行いました。ワイズ例会の会場としていつもお借りしている西那須野教会から歩いて5分くらいのところにある「中華料理 龍鳳園」(那須塩原市西大和)にて、昼食を頂きながら、楽しいひと時を過ごしました。



「台湾のどのあたりに住むのか」「日本から飛行機でどの位かかるのか」「観光するとしたらどんなところ」などなど、美味しい料理を味わいつつ話が弾み、ついには『台湾に行って例会を行おう』と壮大な計画まで持ち上がりました。「2泊3日でないと休みが取りづらい」「ジブリ映画『千と千尋の神隠し』のモデルと言われる『九份』に行きたい」などなど、張メンも「あそことあそこに観光に行くスケジュールを組む」とノリノリで話が盛り上がりました。

張メンいわく「秋が過ごしやすい」とのこと、今秋か来秋に「台湾例会」が実現するよう計画を進



めることになりました。但し、健康でないと飛行機にも乗ることが出来ませんので「健康管理をしっかりと、みんなで台湾に行きましょう!」という、(かなり)大きな目標が決まりました。

第2例会(役員会)報告

日時：3月28日(金) 午後4時30分から
場所：田村会長宅
出席者：田村、村田各メン、田村、村田メネット

1. 4月例会について

4月12日(土) 午後2時から、西那須野教会で行う。ポスターを5枚作製。お茶の準備(ペットボトル)、謝礼(10,000円×2)とする。

当日の集合準備を含めて、午後1時

2. 5月例会(植樹例会)について

塩那管理署との調整は、水曜日で調整を村田が行う。田村さんとお伺いする。*後日、訪問をし、5月10日(土) 午前10時から行うことで決定した。

案内のチラシを作成する。保険に加入。

3. シイタケ昆布の販売について

4月の中旬に行う。

開拓と信仰の姿「開拓と西那須野教会」-(6)

会長 田村 修也

次に2代田嶋弥三郎ですが、(幼名啓太郎)(安政元年~昭和12年・1854~1937)2代弥三郎は幼名啓太郎といい、安政元年1854年に初代弥三郎の長男として島村に生まれました。長じて桃井可堂、信夫恕軒に師事して学びました。

桃井可堂は渋沢栄一の血洗島村のすぐ北隣の北阿賀野村の農家出身で、渋沢は桃井の37歳年下でした。桃井は優秀で水戸学の思想に影響され、江戸に出て東条一堂に入門し、三傑の一人と言われ、江戸で30数年塾を開いて、諸藩の藩主や藩士を教えています。また藤田東湖や勝海舟など著名人や諸国の勤皇の志士と交流して、攘夷から倒幕の考えを持つに至りました。帰郷して塾を開いて、志士を育て、「深谷の吉田松陰」と言われました。新田義貞の義拳を理想として、密かに水戸藩士と結託して赤城山に義兵を挙げようとしたことが、密告され、自首して獄中で自ら絶食して死んでいます。

信夫恕軒は幕末・明治の漢学者で、長男には国際法学者の信夫淳平がいます。明治の初めに東京本所に奇文欣賞塾を開いて師弟に教授をしながら、明治3年には内国勸業博覧会事務局に仕えて、それ以降、東京師範学校、東京大学、東京専門学校(早大)などで講義をしていました。啓太郎は若い日に、偉大な方々の薫陶を受けて、心身とも豊に成長していったことがうかがえます。

明治6年に19歳で、油屋の田島伊三郎の長女まつと結婚しました。明治10年には23歳で、父弥三郎に代わって蚕種業を経営する傍ら、蒸気機関に

よる製糸工場への取り組み、座繰機による製糸工場をも経営して、製品の生糸は横浜に出荷しております。一部はアメリカに輸出されています。

明治14年には27歳で、父弥三郎の後を継いで、島村勸業会社からイタリア駐在員として3カ年の予定で派遣されました。ミラノ市に駐在して蚕種の売捌きの業務に従事しながら、スイス、オーストリア等ヨーロッパ各国の先進農業養蚕業の視察や、顕微鏡使用による蚕の病気予防の検査技術を学びました。また、イタリア統一の父と言われるガルバルジーの設立したインターナショナルスクールに入学して、イタリア語や文化について学び、1年間の学業を無事卒業しております。その時の卒業証書や旅行カバンなどは、5代田嶋公一さんから那須野が原ミュージアムに寄贈されております。

写真資料があり2代弥三郎(啓太郎)のイタリア滞在中の写真で右から2人目が啓太郎です。彼の日誌には島村からの第1回渡航の理由が記載されております。明治16年、29歳、海外で電報により父弥三郎病気の知らせを受けて、ナポリを発って急いで帰国しました。帰国に際して、倍率600倍の顕微鏡を7台購入して持ち帰りました。之は後に日本の蚕の病気予防に大きく貢献しました。父弥三郎が永眠したので、啓太郎は弥三郎を襲名して2代弥三郎になり、29歳の若さで一家を支える責任を負うことになりました。

写真資料には啓太郎がイタリアから持ち帰った顕微鏡7台の内の1台です。明治17年には30歳で、田島武平を社長として蚕桑興北社の設立に参加して、北海道に於いて蚕種の製造を計画しましたが、この事業は成功しませんでした。しかし、この経験が、那須野が原移住の動機になったようであります。

(次号へ続く)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光夫

「大きくなったら
ぼくは さどがしまのひと
たんさん しまではたらいて
みんなをたすけてあげたいな」

特別支援対象のこども達の「なかよし保育」のなかで生活発表が行われました。こどもたちが、学年ごとにその子なりの体操、玉入れ、積み木、そして歌等、日頃の園生活からの発表でした。1人ひとりの成長の経過を伺える表現と静かに着席している姿

に、感動を覚えました。1人ひとりの姿の向こうに、保護者の皆様の見守りのもと、友達、担当教師、担任、シャロームのスタッフというインクルーシブな環境での関わり合いの賜物が見えたからです。

私は、涙と共にしょうがいがあってもそうでなくても、「共に育つ」ことの素晴らしさを確認できました。

冒頭の歌は、今度卒園するしょうがいのあるA君が歌った夢についての歌詞です。

もう始まっているVUCA時代には、その時その時の適解を求めて生きることが求められます。佐渡島が大好きなA君の夢には、「たくさんはたらいて」、「みんなをたすけてあげたい」と、ただ生きるだけではなく善く生きること、言い換えると「共に生きる」事が夢と彼は訴えています。このこどもたちが見せてくれた園での「共生社会」が、園に留まることなく地域に、そして、あまねく広がるように、私たちの生き方が問われています。

アジア学院だより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

常務理事 荒川 朋子

アジア学院2025年度研修開始

4月1日に2025年度の研修が始まりました。

今年の学生数は昨年よりも10名多く、本科生28名、研究科生2名の計30名となりましたが、3月中に全員が入国を果たし、そろって新学期を迎えることができました。紛争地域からやってくる学生もいる中で、これは奇跡のようことだと思いました。感謝いたします。

学生たちの出身国はアジアは、カンボジア、インド、インドネシア、ミャンマー、フィリピン、スリランカ、ベトナム、日本の8カ国。アフリカは、カメルーン、コンゴ民主共和国、ガーナ、エスワティニ、ケニア、リベリア、ウガンダ、ザンビア、マラウイの9カ国。8割がクリスチャンですが、イスラム教徒(1)、ヒンズー教徒(1)、土着宗教(1)、無宗教(3)の学生もいます。カトリックの神父(1)、プロテスタントの牧師(2)と聖職者もいます。

今年の学生の特徴は、アジア学院の卒業生の紹介によって応募してきた人が多いことです。昨年はパキスタンから、卒業生の孫が入学し、初の3代目が現れましたが、こうして卒業生たちが自分たちのよい働きを次世代に継承、継続していつてもらうために、信頼するする人を次々にアジア学院に推薦してくれることをとてもうれしく思っています。しかし、学生たちが日本に来るまでの道のりは容易で

はありません。中には映画さながらのスリリングな体験をしながら日本にたどり着く学生もいます。そのことを覚えながら、またコロナ禍以来高騰が続いている渡航費を支えていただくために、今年の春は「渡航費キャンペーン」を実施しています。そのキャンペーンで紹介している、特に苦労の多かったハイチからの2023年度の学生（ピエールさん）の来日までの道のりをここでも紹介します。

「当時、治安の悪化でハイチの日本大使館は閉鎖しており、ピエールはビザ申請のために隣国のドミニカ共和国に行かなければならなかった。ドミニカ共和国には以前、研修で行ったことがあったが、当時空港は閉鎖しており、国境を通過するには首都から出ているバスに乗るしか方法がなく、交通費も普段よりも値上げしていた。ギャングが横行し、無法地帯となっている首都に行くのは、大変勇気のいることだった。大きなスーツケースを持って移動をしていると金持ちだと思われて危険な目に遭うので、日本の支援団体の代表は、できるだけ小さなカバンで来日するようにピエールに話した。実際、日本に向かう時、彼は今までの人生で手にしたことのないような大金を携えていた。冒険はまだ続く。不法滞在者が多い開発途上国の者は、アメリカ合衆国の経由ビザを取ることが難しく、彼はアメリカを避けてドミニカ共和国からメキシコ経由で、日本に渡る必要があった。メキシコでの乗り換えの折、ロストバゲージで荷物が取り残されてしまったが、とにかく本人は無事に日本の地に降り立つことができた。ハイチの人は、日曜日に教会に行く時、最も上等な服を着る文化を持つが、ピエールも来日の道すがら、送り出し団体からの準備金で服やカバンを新調した。このエピソードからも、日本に行くことが、彼の人生において、どれだけ特別で一大イベントだったか伺える。」

（詳しくはアジア学院のホームページやFace Bookなどをご覧ください。）

学生一人ひとりの来日までの道のりに驚くようなエピソードがあります。どうか、そのことも覚えて、この9か月もまたアジア学院の研修をお守りいただけたらと思います。

YMCAだより

いつもとちぎYMCAをお支えいただきまして心より感謝申し上げます。

2025年度のとちぎYMCAを展望する形で、敬愛する那須ワイズみなさまに新年度のご挨拶を申し上げますたく存じます。

◇とちぎYMCAの年間聖句

今年度の年間聖句は、「行って、あなたも同じようにしなさい。」《善いサマリア人》の喩え（ルカによる福音書10章25節から37節）です。昨年度も同箇所でしたが「隣人になる」にフォーカスを当てました。今年度は、より実践的でアクティブな「行って、あなたも同じようにしなさい」を掲げております。いったいどこへ赴き、誰の何に倣い、同じように何をなすのか？を各人、各部、各職場で追求する一年にしたいと思います。

◇とちぎYMCAの事業活動大方針（各部方針の方針）

具体的な事業の指針となる大方針を3つ挙げました。

◆カギとなるものごとの見方、考え方、アプローチは・・・大胆に挑戦し、堅実に歩む！

◆わたしたちの活動のフィールドは・・・グローバルに考え、ローカルに生きる！

◆わたしたちの時間軸は・・・5年後を見据えた活動（Vision2030と中期8か年計画前半2年目）
わたしたちのとちぎYMCAはおかげさまで創設以来の大きな節目である設立50周年を2028年4月に迎えます。この間、たくさんの先人の方々にお支えいただき、たくさんの方々にボランティアやメンバーとしてお関わりいただき、また共に汗していただきましたすべてのみなさまに心より感謝を申し上げます。

そこで、2025年度年はこれまでの歩みを礎として顧み、未来への展望をもって臨むために、とちぎYMCAのすべての活動に「大胆に挑戦し、堅実に歩む」と「グローバルに考え、ローカルに生きる」、「5年後を見据えた活動」を大方針（方針の方針）として据えたいと思います。

わたくしたちは、これら聖句と大方針に基づいたYMCA各法人、各部、各事業のPDCAを回してまいりたいと思います。ぜひ、Doに叱咤激励を、Checkに助言苦言を、そしてActにお祈りをお寄せいただければ幸いです。（塩澤総主事より）

【ユースボランティアリーダーを送る会】

2024年度、宇都宮・那須・トライ東で活動・活躍をしたとちぎYMCAユースリーダー13名・高校生ボランティアグループ「つぼみ」で活動をした



13名へ感謝の気持ち伝えました。那須

YMCAからは8名のリーダーが卒業しました。当日はスライドショーやレクリエーション、プレゼント贈呈など素敵な時間となりました。卒業するリーダーから後輩リーダーには確実にバトンが引き継がれました。YMCAの思い出を胸に次のステージでも頑張ってください！

おめでとうございます。

【卒業するユースボランティアリーダーからの言葉】

矢部 将吾（ちょんリーダー）

大学生活の4年間、ほぼ毎日YMCAに関わっている時期がありました。リーダー会やトレーニング、研修、活動日と続き、忙しくはありましたが、とても充実した毎日でした。

子どもたちや親御さん、リーダー、スタッフ、ワイズの方々との経験は、今も自分の中に刻まれています。4年間の喜怒哀楽が詰まったYMCAでの大切な日々は、ずっと忘れることはありません。本当にありがとうございました。



【とちぎYMCA・那須YMCAの4月の予定】

- ・4/1（火）とちぎYMCA職員就業礼拝@宇都宮市まちづくりセンター（まちぴあ）
- ・那須YMCA 英語クラス：4/7（月）より新年度開始
- ・4/19（土）那須YMCA新入生歓迎会
- ・4/26（土）とちぎYMCA新入生歓迎会

2025年度那須ワイズ5月植樹例会のご案内

あなたの手で 緑を育てませんか

恒例の植樹例会を下記により実施致します。お問い合わせの上、ご出席くださるようご案内致します。小雨決行ですが、晴天になりますようお願いしております。

1. 月 日：2025年5月10日（土曜日）10:00
2. 場 所：那須街道「赤松美林」塩那森林管理所指定植林地
3. 集合場所：現地集合（那須街道赤松林入口の駐車場）
4. 内 容：植樹等・周辺のゴミ拾い

5. 行程

タイムスケジュール	内容
10:00	集合
10:15	植樹現場へ
10:30	あいさつ・塩那森林管理所職員からの植樹説明
10:30～11:30	植樹実施
11:30	周辺のゴミ拾い・解散

6. 装備（個人装備・雨具・軍手・帽子・マスク・タオル・飲み物等）

参加者は全員保険加入を致します。

*塩那森林管理所職員の皆様には大変お世話になります。
ヘルメット・苗木・唐傘等用具を準備して頂いています。

連絡先
那須ワイズメンズクラブ 会長 田村 修也
(090-5545-6763)